

渋川市立小中学校適正規模・適正配置素案

教育総務課学校適正規模・適正配置推進室

目次

1. 検討の考え方
2. 検討の手法
3. エリア設定の考え方
4. 【モデル1】南北3分割モデル
 - (1) 設定エリア別学校一覧
 - (2) エリア設定図面
 - (3) 北部エリア
 - (4) 中部エリア
 - (5) 南部エリア
 - (6) サンプル配置
 - (7) サンプルモデルを採用した場合の全体スケジュールイメージ
5. 【モデル2】河川区切りモデル
 - (1) 設定エリア別学校一覧
 - (2) エリア設定図面
 - (3) 小野上・子持エリア
 - (4) 渋川・伊香保エリア
 - (5) 赤城・北橘エリア
 - (6) サンプル配置
 - (7) サンプルモデルを採用した場合の全体スケジュールイメージ

1 検討の考え方

◆原則として以下の条件を満たすよう、適正規模・適正配置を検討します。

1. 規模及び配置

- (1)市全体での学校数は、児童生徒数ベース基準(小:3~6校、中:2~4校)の範囲内を目指します。
- (2)2050年時点で適正規模(1学年あたり小:2~3学級、中:3~5学級)を維持できるパターンを採用します。
⇒概ね現行制度下では1校あたり【小:240~630人程度、中:240~550人程度(特支含む)】が目安となります。
- (3)適正配置後の通学時間が概ね【小:40分以内、中:60分以内】となるような配置とします。

2. 学校施設

- (1)学校施設は長寿命化改修を実施した上で、80年程度使用することとします。
- (2)災害(土砂・洪水)計画区域に位置する学校は統合先の対象にせず、長寿命化改修等も実施しません。
- (3)長寿命化改修は工期5年を想定、着手は最速で令和10年度とします。
- (4)長寿命化改修は築50~55年の間で完了するよう配慮しながら、財政出動の平準化を図ります。

3. 地域の考え方

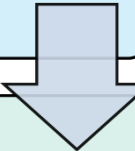
- (1)単位自治会の分割は想定しません。

4. その他

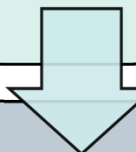
- (1)その他基本方針に示す各種視点に基づく検討を行います。

2 検討の手法

児童生徒数、住民等の生活圏、地理的要因等を考慮し、検討の大枠となるエリア設定を行います。



設定したエリアごとに、エリア別再編パターン設定を行います。



各エリアごとの採用パターンを組み合わせ、全体スケジュールとして整理します。

3 エリア設定の考え方

- ✓ 設定したエリア内での再編統合実施により、原則適正規模の維持ができること
- ✓ 適正配置された学校への通学距離と時間について、著しい不都合が生じないこと
- ✓ 保護者、こども、関係者等の生活圏の実態と著しい乖離がないこと
- ✓ 単位自治会を分割しないこと
- ✓ 市その他施策と整合的であること
- ✓ 歴史的な経過を踏まえた、感情的配慮があること



- これらの要件を可能な限り満たすよう、2つのモデル（「南北3分割モデル」「河川区切りモデル」）を参考モデルとして設定しました。
- 今後の具体的な検討を行うための参考モデルであり、いずれかのモデルにすることが決定しているものではありません。

【参考】旧市町村別モデルを素案として設定しなかった理由

地区	R13旧市町村別 児童数	対応 小学校	R13学校別 児童数
渋川地区	1466	渋川北小	264
		渋川南小	87
		金島小	113
		古巻小	595
		豊秋小	340
		渋川西小	67
伊香保地区	60	伊香保小	60
小野上地区	9	小野上小	9
子持地区	359	中郷小	153
		長尾小	206
赤城地区	152	三原田小	101
		津久田小	51
北橋地区	182	橋小	124
		橋北小	58

※適正規模のためには最低でも小・中ともに240人程度の児童生徒が必要となります

地区	R13旧市町村別 生徒数	対応 中学校	R13学校別 生徒数
渋川地区	834	渋川中	254
		渋川北中	201
		金島中	61
		古巻中	318
伊香保地区	14	伊香保中	14
小野上地区 子持地区	222	子持中	222
赤城地区	121	赤城南中	75
		赤城北中	46
北橋地区	140	北橋中	140

- 旧市町村をベースとしたエリア設定を行った場合、令和13年度の時点で既にエリア単位での再編統合では適正規模を満たせないエリア(黄色表示)が半数以上となります。
- 適正規模を将来的にも実現していくのであれば、旧市町村よりも広範なエリア設定をする必要があります。

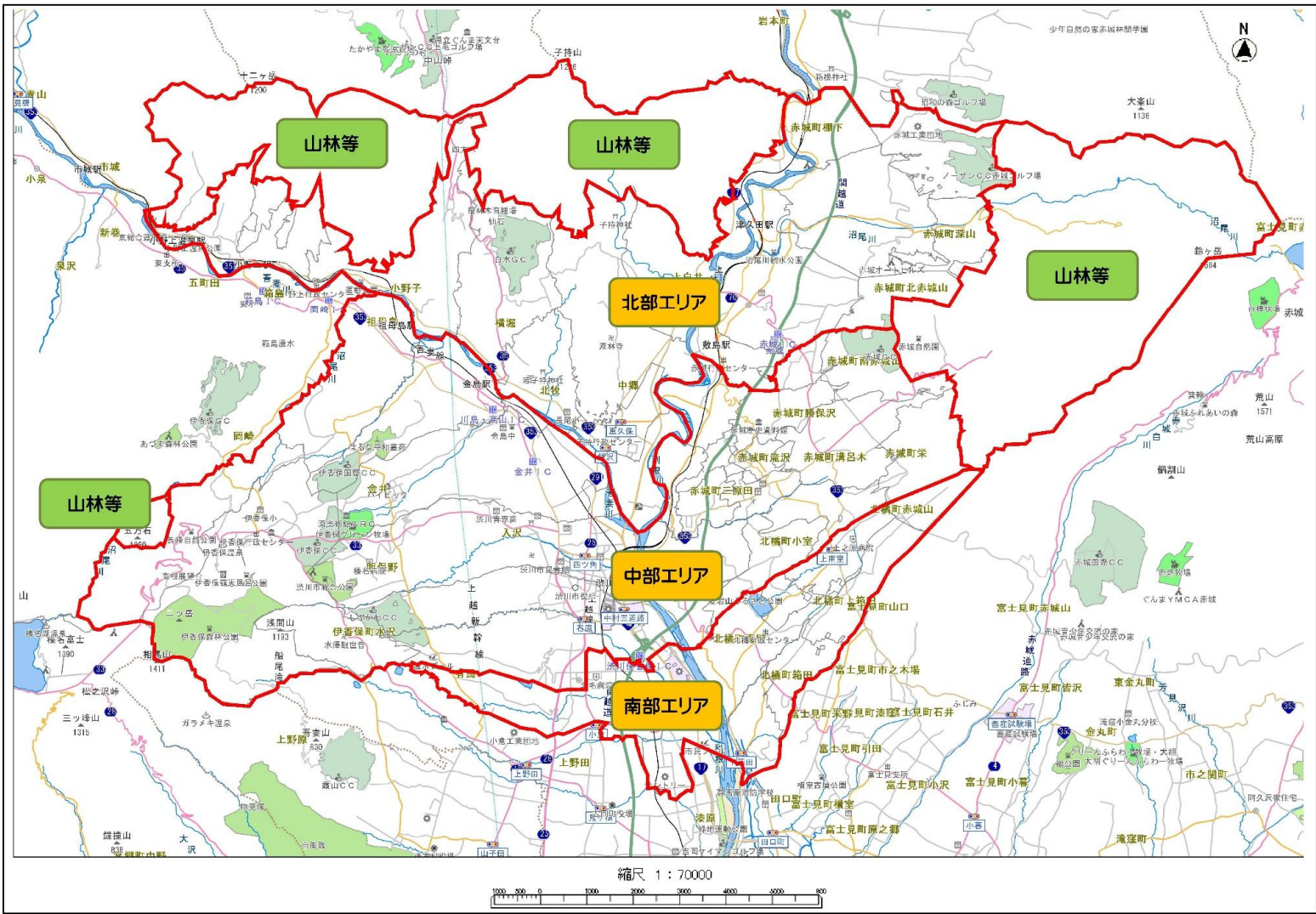
4 【モデル1】南北3分割モデル

(1) 設定エリア別学校一覧

エリア名	小学校	R13児童数	中学校	R13生徒数	備考
北部エリア	小野上小	9	子持中	222	➤ 小野上地区、子持地区、赤城地区(赤城北中区)を範囲としたもの ➤ 想定小学校数:4校⇒1校 ➤ 想定中学校数:2校⇒1校 ※義務教育学校の想定あり
	中郷小	153			
	長尾小	206			
	津久田小	51	赤城北中	46	
	小計	419	小計	268	
中部エリア	渋川北小	264	渋川北中	201	➤ 渋川地区(渋川地区、金島地区、豊秋地区)、伊香保地区、赤城地区(赤城南中区)、北橘地区(橘北小区)を範囲としたもの ➤ 想定小学校数:8校⇒2校 ➤ 想定中学校数:5校(北橘中含まない)⇒1校
	渋川西小	67	渋川中	254	
	渋川南小	87			
	豊秋小	340			
	金島小	113	金島中	61	
	伊香保小	60	伊香保中	14	
	三原田小	101	赤城南中	75	
	橘北小	58	北橘中(北部)	49 ※1	
	小計	1090	小計	654	
南部エリア	古巻小	595	古巻中	318	➤ 渋川地区(古巻地区)、北橘地区(橘小区)を範囲としたもの ➤ 想定小学校数:2校⇒2校 ➤ 想定中学校数:2校(北橘中含む)⇒1校
	橘小	124	北橘中(南部)	91 ※1	
	小計	719	小計	409	

※1 橘小学校:橘北小学校の構成比による概算

(2)エリア設定図面



- ✓ 通学等の利便性や適正配置後の児童生徒数を考慮したモデルです。
- ✓ 既存の自治会区をもとにエリアを設定しているため、実際の学区とは異なる場所があります。
- ✓ 赤城・北橋の分割に際しては、橋の位置を考慮しています。
- ✓ 北部・中部エリアはエリア内での標高差が大きいですが、大部分がバス通学となることが想定されるため、通学に係る標高の影響は小さいと考えます。

(3) 北部エリア

◆パターン1(小・中維持)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
小野上小	【仮称】 渋川北部小 (419人)	長尾小同位置	➤ 新規配置の場合は配置の自由度が高い。 ➤ 中学校を新築する場合は工事と用地買収の費用が大きい。 ➤ 小学校は校舎の改修・改築時期や統合の順序の検討を要する ➤ 中学校の規模がやや小さい
中郷小			
長尾小			
津久田小			
子持中	【仮称】 渋川北部中 (268人)	中郷小同位置 or 新規場所	
赤城北中			

◆パターン2(義務教育学校新設)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
小野上小	【仮称】 渋川北部 義務教育学校 (687人) ※小:419人 ※中:268人	新規場所	➢ 義務教育学校設置による対外的な宣伝効果が期待できる ➢ 9年間の教育課程を活用し、特色ある教育を実施することができる ➢ 配置を新しく選定できるため、配置における自由度が高い ➢ 新築となるため、工事とそれに伴う用地買収の費用が大きい ➢ 中学校相当部分の規模がやや小さい
中郷小			
長尾小			
津久田小			
子持中			
赤城北中			

※適正配置後の児童生徒数は令和13年度時点の推計とします。

※パターン1においては、中学校は現子持中同位置に再編統合し、後日改めて新校舎へ移転します。

(4) 中部エリア

◆パターン1(金島小使用(学校区変更なし))

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
豊秋小 ----- 渋川南小 ----- 伊香保小	【新】豊秋小 (487人)	豊秋小同位置	➤ 小学校はバランスの良い児童数配分となる ➤ 学校敷地に係る借地の解消が可能となる ➤ 市内全域の小学校配置を考えたときの配置バランスが良い
渋川北小 ----- 渋川西小 ----- 金島小	【新】金島小 (444人)	金島小同位置	
渋川中 ----- 渋川北中 ----- 金島中 ----- 伊香保中 ----- 赤城南中 ----- 北橋中 (橋北小区)	【新】渋川中 (654人)	渋川中同位置	

◆パターン2(渋川北小使用)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
豊秋小 ----- 渋川南小	【新】豊秋小 (427人)	豊秋小同位置	➤ 小学校は比較的バランスの良い児童数配分となる ➤ 学校敷地に係る借地の解消ができない ➤ 市内全域の小学校配置を考えたとき、やや市内中心部に寄った配置となり、祖母島地区からの通学距離がやや遠くなる ➤ (新)渋川中は、短期的には生徒数過多となるため、校舎の改修・改築時期や統合の順序の検討を要する
伊香保小 ----- 渋川北小 ----- 渋川西小 ----- 金島小	【新】渋川北小 (504人)	渋川北小同位置	
渋川中 ----- 渋川北中 ----- 金島中 ----- 伊香保中 ----- 赤城南中 ----- 北橋中 (橋北小区)	【新】渋川中 (654人)	渋川中同位置	

※適正配置後の児童生徒数は令和13年度時点の推計とします。

(4) 中部エリア

◆パターン3(金島小使用(学校区変更有))

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
渋川北小 (渋川地区) 渋川西小 (渋川地区) 豊秋小 渋川南小 伊香保小	【新】豊秋小 (670人)	豊秋小同位置	➤ 豊秋小が多いバランスとなる ➤ 学校敷地に係る借地解消が可能となる ➤ 市内全域の小学校配置を考えたときの配置バランスが良い ➤ 金島地区の歴史に沿った配置となる
渋川北小 (金島地区) 渋川西小 (金島地区) 金島小	【新】金島小 (261人)	金島小同位置	➤ (新)金島小の規模がやや小さい ➤ (新)豊秋小及び(新)渋川中は、短期的には生徒数過多となるため、校舎の改修・改築時期や統合の順序の検討を要する
※中学校は前ページのパターンと同様			➤ 渋川北小及び渋川西小では、統合のタイミングで友達と別れることとなる

※適正配置後の児童生徒数は令和13年度時点の推計とします。

(5) 南部エリア

◆パターン1(北橘中使用)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
古巻小	古巻小 (595人)	古巻小同位置	➤ 小学校2校ともに、適正規模確保可能性を見込める ➤ (仮称) 渋川東部小学校は、中学校進学時に進学先が異なることから、統合時に友達と別れることとなる ➤ 多少ではあるが三原田小、橘小、橘北小の中間点に寄せた立地がとれる ➤ 中学校を小学校に転用することとなるため、改修を要する
三原田小	【仮称】 渋川東部小 (283人)	北橘中同位置	
橘小			
橘北小			
古巻中	【仮称】 渋川南部中 (409人)	古巻中同位置	
北橘中 (橘小区)			

◆パターン2(既存小学校改修)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
古巻小	古巻小 (595人)	古巻小同位置	➤ 小学校2校ともに、適正規模確保可能性を見込める ➤ (仮称) 渋川東部小学校は、中学校進学時に進学先が異なることから、統合時に友達と別れることとなる ➤ 大規模な改修を必要としない可能性が高い ➤ 通学距離が遠くなる地域が発生する ➤ 三原田小を利用する場合、校舎の改修・改築時期や統合の順序の検討を要する
三原田小	【仮称】 渋川東部小 (283人)	三原田小同位置 Or 橘小同位置	
橘小			
橘北小			
古巻中	【仮称】 渋川南部中 (409人)	古巻中同位置	
北橘中 (橘小区)			

※適正配置後の児童生徒数は令和13年度時点の推計とします。

※三原田小及び橘北小は、中学校進学時に中部エリア((新)渋川中)へ進学します。

(6) サンプル配置

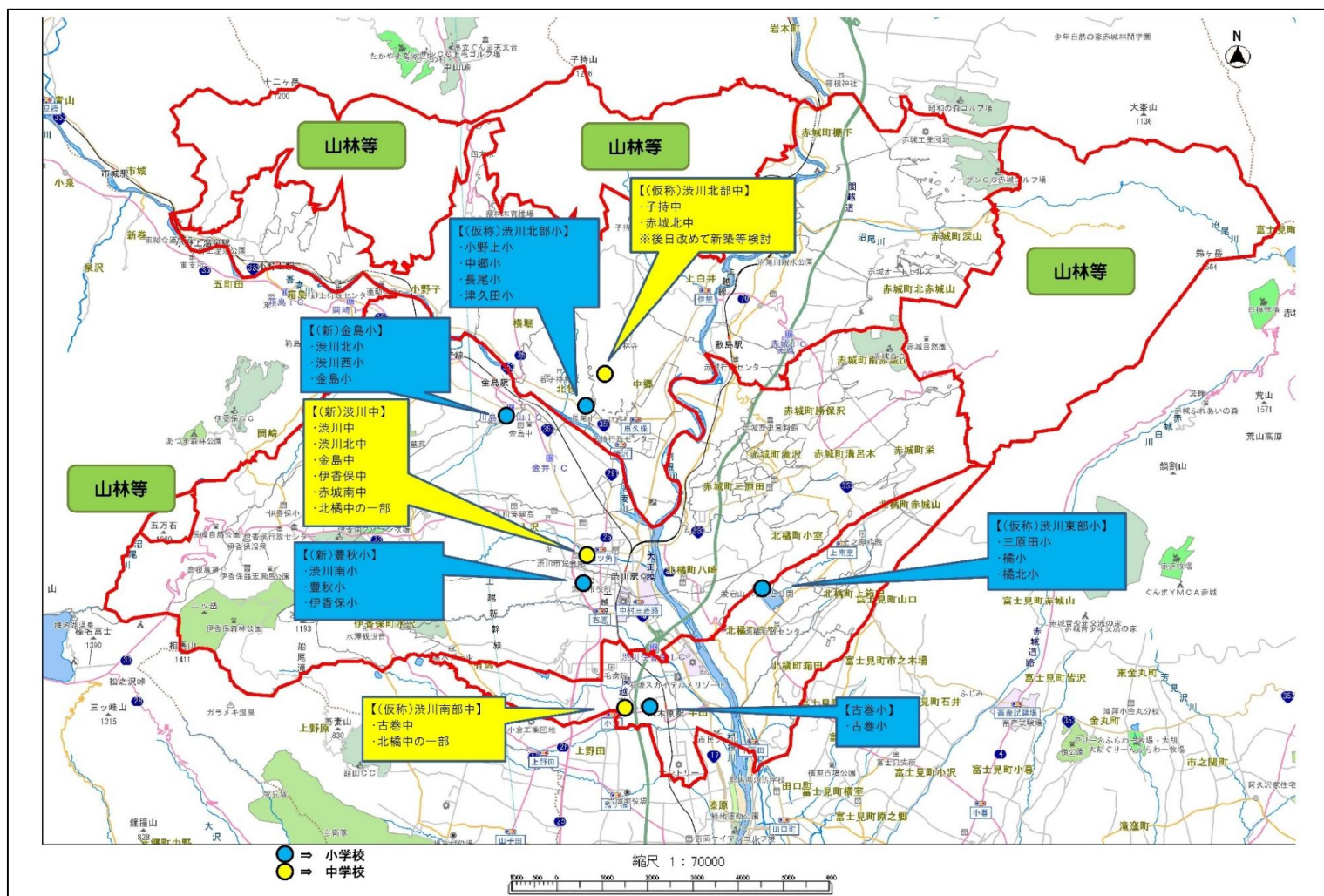
【北部:パターン1(中学新規場所)、中部:パターン1、南部:パターン1】モデル⇒小:5校、中:3校モデル

エリア区分	現小学校	新小学校	現中学校	新中学校	備考	
北部エリア	小野上小	(仮称) 渋川北部小/長尾小同位置	子持中	(仮称) 渋川北部中/子持中同位置 ※校舎寿命に伴い要新築	➤ 義務教育学校を設置せず、小学校5校、中学校3校とするもの ➤ 北部中は新築を要する ➤ (仮称) 北部小、(新) 渋川中はキャパシティ超過となるため、改築(又は増築)を要する ➤ (仮称) 渋川東部小は現北橋中を中学校から小学校へ変更し使用するため、改修を要する。 ➤ その他学校は順次長寿命化改修を実施する ➤ 改築は、全工程(基本構想、基本設計、実施設計、解体、工事)で6年間、36.7億を想定 ➤ 長寿命化改修は、全工程(基本構想、基本設計、実施設計、工事)で5年間、23.7億を想定 ➤ 新築は、全工程(基本構想、基本設計、実施設計、工事)で5年間+用地買収、53.3億円を想定	
	長尾小		赤城北中			
	中郷小					
	津久田小					
中部エリア	渋川北小	(新) 金島小/金島小同位置	渋川北中	(新) 渋川中/渋川中同位置 ※要改築or増築		
	渋川西小		金島中			
	金島小					
	渋川南小	(新) 豊秋小/豊秋小同位置	渋川中			
	豊秋小		伊香保中			
	伊香保小		赤城南中			
	三原田小	(仮称) 渋川東部小/北橋中同位置 ※要改修	北橋中			
	橋北小					
南部エリア	橋小	(継続) 古巻小/古巻小同位置		(仮称) 渋川南部中/古巻中同位置		
	古巻小		古巻中			

※上記の表は、南北3分割モデルにおける適正規模・適正配置の参考パターンを示すもので、配置図及びスケジュールの案を示すために設定したものです。

※上記のパターンは適正規模・適正配置の内容を確定させるものではありません。

(参考) サンプルモデルを採用した場合の学校配置図



※上記の配置図は、南北3分割モデルにおける適正規模・適正配置の参考パターンを示すもので、適正規模・適正配置を確定させるものではありません。

(7) サンプルモデルを採用した場合の全体スケジュールイメージ(小学校)

学校名	前期(R10～R17)					中期(R18～R25)					後期(R26～R32)				
渋川北小						➤ 渋川北小・金島小・渋川西小の統合 ➤ 位置は現金島小を想定 ➤ 校舎の長寿命化改修を行う(統合前)									
金島小															
渋川西小															
古巻小											現古巻小改築				
渋川南小						➤ 渋川南小・豊秋小・伊香保小の統合 ➤ 位置は現豊秋小を想定 ➤ 校舎の長寿命化改修を行う(統合前)									
豊秋小															
伊香保小															
小野上小						➤ 小野上小・長尾小・中郷小・津久田小の統合 ➤ 位置は現長尾小を想定 ➤ 校舎の改築を行う(統合前)									
長尾小															
中郷小															
津久田小															
三原田小						➤ 三原田小・橘小・橘北小の統合 ➤ 位置は現北橘中を想定 ➤ 校舎の長寿命化改修等を行う(統合後)									
橘小															
橘北小															

※上記スケジュールは、南北3分割モデルにおける適正規模・適正配置の参考スケジュールを示すもので、適正規模・適正配置を確定させるものではありません。
※統合の実施時期は、適正規模・適正配置に必要な施設改修のタイミング等を考慮して設定したものです。
※市全体で実施する工事や事業等の影響により、施設改修等や統合の時期が前後する可能性があります。また、学校の状況等を考慮し、上記予定に先立って段階的に統合を行うことも考えられます。

(7) サンプルモデルを採用した場合の全体スケジュールイメージ(中学校)

学校名	前期(R10～R17)					中期(R18～R25)					後期(R26～R32)				
渋川北中						➢ 渋川北中・金島中・渋川中・伊香保中・赤城南中・北橘中(橘北小)の統合 ➢ 位置は現渋川中を想定 ➢ 校舎の改築を行う(統合前)									
金島中															
渋川中															
伊香保中															
赤城南中															
北橘中 (橘北小)															
北橘中 (橘小)						➢ 古巻中・北橘中(橘小)の統合 ➢ 位置は現古巻中を想定 ➢ 校舎の改築を行う(統合後)									
古巻中															
子持中	➢ 子持中・赤城北中の統合 ➢ 位置は現子持中を想定(後に新校舎へ移転) ➢ 校舎の新築を行う(統合後)														
赤城北中															

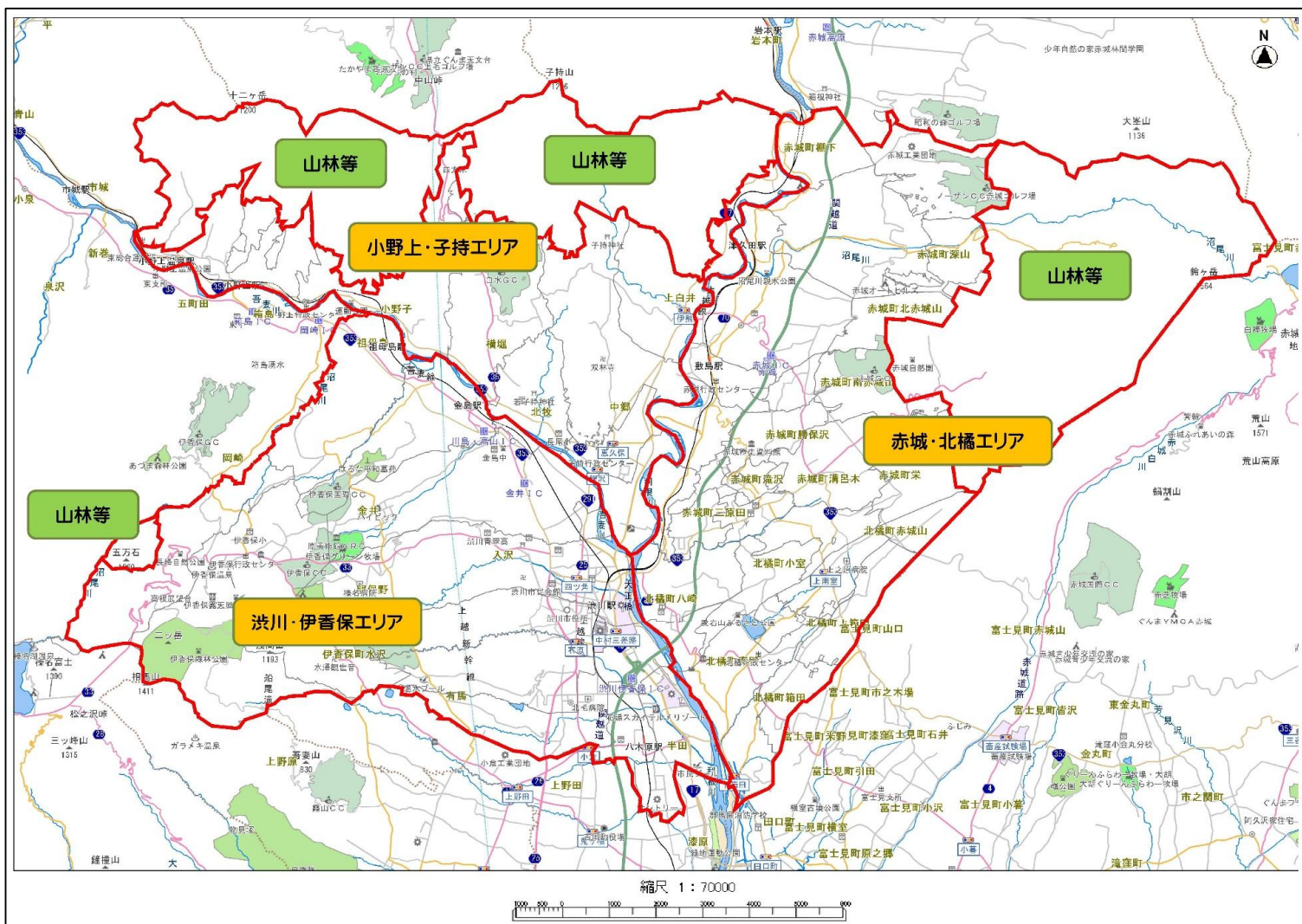
※上記スケジュールは、南北3分割モデルにおける適正規模・適正配置の参考スケジュールを示すもので、適正規模・適正配置を確定させるものではありません。
※統合の実施時期は、適正規模・適正配置に必要な施設改修のタイミング等を考慮して設定したものです。
※市全体で実施する工事や事業等の影響により、施設改修等や統合の時期が前後する可能性があります。また、学校の状況等を考慮し、上記予定に先立って段階的に統合を行うことも考えられます。

5 【モデル2】河川区切りモデル

(1) 設定エリア別学校一覧

エリア名	小学校	R13児童数	中学校	R13生徒数	備考
小野上・子持エリア	小野上小	9	子持中	222	➤ 小野上地区、子持地区を範囲としたもの ➤ 想定小学校数:3校⇒1校 ➤ 想定中学校数:1校⇒1校 ※義務教育学校の想定あり
	中郷小	153			
	長尾小	206			
	小計	368	小計	222	
渋川・伊香保エリア	渋川北小	264	渋川北中	201	➤ 渋川地区、伊香保地区を範囲としたもの ➤ 想定小学校数:7校⇒3校 ➤ 想定中学校数:5校⇒2校
	渋川西小	67			
	渋川南小	87	渋川中	254	
	豊秋小	340			
	金島小	113	金島中	61	
	古巻小	595	古巻中	318	
	伊香保小	60	伊香保中	14	
	小計	1526	小計	848	
赤城・北橘エリア	三原田小	101	赤城南中	75	➤ 赤城地区、北橘地区を範囲としたもの ➤ 想定小学校数:4校⇒1校 ➤ 想定中学校数:3校⇒1校 ※義務教育学校の想定あり
	津久田小	51	赤城北中	46	
	橘小	124	北橘中	140	
	橘北小	58			
	小計	334	小計	261	

(2)エリア設定2 図面



- ✓ 各地域の歴史的背景や河川という地理的要因を考慮したモデルです。
- ✓ 河川で区切る形でエリア設定を行っています。
- ✓ エリアによっては児童生徒数が少なく、長期的に見ると小規模校が生じる可能性があります。

(3) 小野上・子持エリア

◆パターン1(小・中維持)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
小野上小	【仮称】 渋川北部小 (368人)	長尾小同位置	➤ 新規配置の場合は配置の自由度が高い。 ➤ 中学校を新築する場合は工事と用地買収の費用が大きい。 ➤ 小学校は校舎の改修・改築時期や統合の順序の検討を要する ➤ 中郷小同位置に中学校を設置する場合は、改築を要する ➤ 中学校の規模がやや小さい
中郷小			
長尾小			
子持中	子持中 (222人)	中郷小同位置 or 新規場所	

◆パターン2(義務教育学校新設)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
小野上小	【仮称】 渋川北部 義務教育学校 (590人) ※小:368人 ※中:222人	新規場所	➤ 義務教育学校設置による対外的な宣伝効果が期待できる ➤ 9年間の教育課程を活用し、特色ある教育を実施することができる ➤ 配置を新しく選定できるため、配置における自由度が高い ➤ 新築となるため、工事とそれに伴う用地買収の費用が大きい ➤ 中学校相当部分の規模がやや小さい
中郷小			
長尾小			
子持中			

※適正配置後の児童生徒数は令和13年度時点の推計とします。

(4) 渋川・伊香保エリア

◆パターン1(金島小使用(学校区変更なし))

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
豊秋小 ----- 渋川南小 ----- 伊香保小	【新】豊秋小 (487人)	豊秋小同位置	➤ 小学校はバランスの良い児童数配分となる ➤ 学校敷地に係る借地の解消が可能となる ➤ 市内全域の小学校配置を考えたときの配置バランスが良い ➤ (新)渋川中は、短期的には生徒数過多となるため、校舎の改修・改築時期や統合の順序の検討を要する
渋川北小 ----- 渋川西小 ----- 金島小	【新】金島小 (444人)	金島小同位置	
古巻小	古巻小 (595人)	古巻小同位置	
渋川中 ----- 渋川北中 ----- 金島中 ----- 伊香保中	【新】渋川中 (530人)	渋川中同位置	
古巻中	古巻中 (318人)	古巻中同位置	

◆パターン2(渋川北小使用)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
豊秋小 ----- 渋川南小	【新】豊秋小 (427人)	豊秋小同位置	➤ 小学校は比較的バランスの良い児童数配分となる ➤ 学校敷地に係る借地の解消ができない ➤ 市内全域の小学校配置を考えたとき、やや市中心部に寄った配置となり、祖母島地区からの通学距離がやや遠くなる ➤ (新)渋川中は、短期的には生徒数過多となるため、校舎の改修・改築時期や統合の順序の検討を要する
伊香保小 ----- 渋川北小 ----- 渋川西小 ----- 金島小	【新】渋川北小 (504人)	渋川北小同位置	
古巻小	古巻小 (595人)	古巻小同位置	
渋川中 ----- 渋川北中 ----- 金島中 ----- 伊香保中	【新】渋川中 (530人)	渋川中同位置	
古巻中	古巻中 (318人)	古巻中同位置	

※適正配置後の児童生徒数は令和13年度時点の推計とします。

(4) 渋川・伊香保エリア

◆パターン3(金島小使用(学校区変更有))

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
渋川北小 (渋川地区)	【新】豊秋小 (670人)	豊秋小同位置	➤ 豊秋小が多いバランスとなる ➤ 学校敷地に係る借地解消が可能となる ➤ 市内全域の小学校配置を考えたときの配置バランスが良い ➤ 金島地区の歴史に沿った配置となる ➤ (新)金島小の規模がやや小さい ➤ (新)豊秋小及び(新)渋川中は、短期的には生徒数過多となるため、校舎の改修・改築時期や統合の順序の検討を要する ➤ 渋川北小及び渋川西小では、統合のタイミングで友達と別れることとなる
渋川西小 (渋川地区)			
豊秋小			
渋川南小			
伊香保小			
渋川北小 (金島地区)	【新】金島小 (261人)	金島小同位置	
渋川西小 (金島地区)			
金島小			
古巻小	古巻小 (595人)	古巻小同位置	
※中学校は前ページのパターンと同様			

※適正配置後の児童生徒数は令和13年度時点の推計とします。

(5) 赤城・北橘エリア

◆パターン1(小・中維持)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
三原田小	【仮称】 渋川東部小 (334人)	三原田小同位置 or 橘小同位置	➤ 旧勢多郡の中で学校の維持が可能 ➤ 小中ともに適正規模確保を見込める ➤ 校舎等が2校となるため、他のモデルと比較してランニングコストが高い ➤ 三原田小を利用する場合、校舎の改修・改築時期や統合の順序の検討を要する ➤ 通学時に川を渡らない ➤ 赤城地区の北部や北橘地区南部では、川を渡って隣接エリアへ進学した方が利便性が高くなる可能性がある ➤ 中学校の規模がやや小さい
津久田小			
橘小			
橘北小			
赤城南中	【仮称】 渋川東部中 (261人)	北橘中同位置	
赤城北中			
北橘中			

◆パターン2(義務教育学校新設)

現在	適正配置後	場所	メリット/デメリット
三原田小	【仮称】 渋川東部 義務教育学校 (595人) ※小:334人 ※中:261人	北橘中同位置	➤ 義務教育学校設置による対外的な宣伝効果が期待できる ➤ 9年間の教育課程を活用し、特色ある教育を実施することができる ➤ 校舎等が1校となるため、他のパターンと比較してランニングコストが低い ➤ 中学生相当の学年の適正規模という観点では、将来的に小規模化する可能性がある ➤ 校舎新築より先に統合を行う場合、小学生相当の利用ができるように改修を要するため、相応のコストを要する ➤ 中学校相当部分の規模がやや小さい
津久田小			
橘小			
橘北小			
赤城南中			
赤城北中			
北橘中			

※適正配置後の児童生徒数は令和13年度時点の推計とします。

(6) サンプル配置

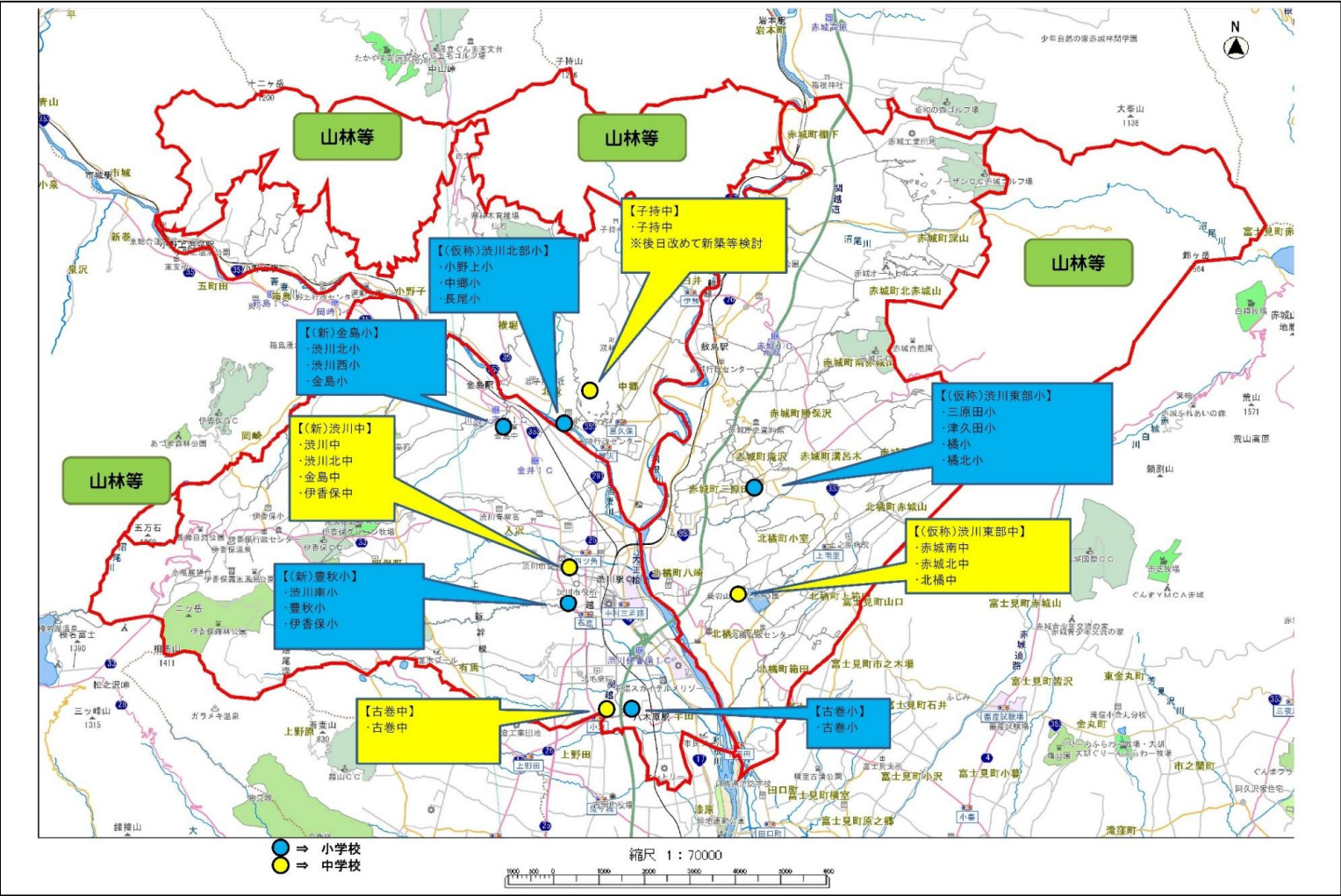
【小・子エリア: パターン1(中学新規場所)、渋・伊エリア: パターン1、赤・北エリア: パターン1】モデル⇒小: 5校、中: 4校モデル

エリア区分	現小学校	新小学校	現中学校	新中学校	備考
小野上・子持 エリア	小野上小	(仮称)渋川北部小/長尾小同位置	子持中	(継続)子持中/子持中同位置 ※校舎寿命に伴い要新築	➤ 義務教育学校を設置せず、小学校5校、中学校4校とするもの ➤ 子持中は新築を要する ➤ (仮称)北部小、(仮称)東部小、(新)渋川中はキャパシティ超過となるため、改築(又は増築)を要する ➤ その他学校は順次長寿命化改修を実施する ➤ 改築は、全工程(基本構想、基本設計、実施設計、解体、工事)で6年間、36.7億を想定 ➤ 長寿命化改修は、全工程(基本構想、基本設計、実施設計、工事)で5年間、23.7億を想定 ➤ 新築は、全工程(基本構想、基本設計、実施設計、工事)で5年間+用地買収、53.3億円を想定
	長尾小				
	中郷小				
渋川・伊香保 エリア	渋川北小	(新)金島小/金島小同位置	渋川北中	(新)渋川中/渋川中同位置 ※要改築or増築	
	渋川西小		金島中		
	金島小		渋川中		
	渋川南小	(新)豊秋小/豊秋小同位置	伊香保中		
	豊秋小				
	伊香保小				
	古巻小	(継続)古巻小/古巻小同位置	古巻中		
赤城・北橋エ リア	三原田小	(仮称)渋川東部小/三原田小同位置	赤城南中	(仮称)渋川東部中/北橋中同位置	
	津久田小		赤城北中		
	橘小		北橋中		
	橘北小				

※上記の表は、河川区切りモデルにおける適正規模・適正配置の参考パターンを示すもので、配置図及びスケジュールの案を示すために設定したものです。

※上記のパターンは適正規模・適正配置の内容を確定させるものではありません。

(参考) サンプルモデルを採用した場合の学校配置図



※上記の配置図は、河川区切りモデルにおける適正規模・適正配置の参考パターンを示すもので、適正規模・適正配置を確定させるものではありません。

(7) サンプルモデルを採用した場合の全体スケジュールイメージ(小学校)

学校名	前期(R10～R17)				中期(R18～R25)				後期(R26～R32)			
渋川北小					➢ 渋川北小・金島小・渋川西小の統合 ➢ 位置は現金島小を想定 ➢ 校舎の長寿命化改修を行う(統合前)							
金島小												
渋川西小												
古巻小									現古巻小改築			
渋川南小					➢ 渋川南小・豊秋小・伊香保小の統合 ➢ 位置は現豊秋小を想定 ➢ 校舎の長寿命化改修を行う(統合前)							
豊秋小												
伊香保小												
小野上小	➢ 小野上小・長尾小・中郷小の統合 ➢ 位置は現長尾小を想定 ➢ 校舎の改築を行う(統合前)											
長尾小												
中郷小												
津久田小					➢ 津久田小・三原田小・橘小・橘北小の統合 ➢ 位置は現三原田小を想定 ➢ 校舎の改築を行う(統合前)							
三原田小												
橘小												
橘北小												

※上記スケジュールは、河川区切りモデルにおける適正規模・適正配置の参考スケジュールを示すもので、適正規模・適正配置を確定させるものではありません。
※統合の実施時期は、適正規模・適正配置に必要な施設改修のタイミング等を考慮して設定したものです。
※市全体で実施する工事や事業等の影響により、施設改修等や統合の時期が前後する可能性があります。また、学校の状況等を考慮し、上記予定に先立って段階的に統合を行うことも考えられます。

(7) サンプルモデルを採用した場合の全体スケジュールイメージ(中学校)

学校名	前期(R10～R17)						中期(R18～R25)						後期(R26～R32)					
渋川中							➢ 渋川北中・金島中・渋川中・伊香保中の統合 ➢ 位置は現渋川中を想定 ➢ 校舎の改築を行う(統合前)											
渋川北中																		
金島中																		
伊香保中																		
古巻中													現古巻中改築					
子持中													子持中新築:新校舎へ移転					
赤城南中	➢ 赤城南中・赤城北中・北橘中の統合 ➢ 位置は現北橘中を想定 ➢ 校舎の長寿命化改修を行う(統合後)																	
赤城北中																		
北橘中																		

※上記スケジュールは、河川区切りモデルにおける適正規模・適正配置の参考スケジュールを示すもので、適正規模・適正配置を確定させるものではありません。

※統合の実施時期は、適正規模・適正配置に必要な施設改修のタイミング等を考慮して設定したものです。

※市全体で実施する工事や事業等の影響により、施設改修等や統合の時期が前後する可能性があります。また、学校の状況等を考慮し、上記予定に先立って段階的に統合を行うことも考えられます。